

第2章 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の全体計画

1 設立の趣旨

(1) これからの社会の動向

中教審答申（2016）では、「子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く（キャシー・デビッドソン氏〔ニューヨーク市立大学大学院センター教授〕）との予測や今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い（マイケル・オズボーン氏〔オックスフォード大学准教授〕）などの予測がある。」と将来の社会の変化を紹介している。

卒業生は一般企業に就労するほか、福祉サービスを利用する福祉的就労をしているが、将来的には指示されて作業する就労状況から、業務遂行上の課題を発見して改善することができる能力が今まで以上に求められるようになっていくと考える。

(2) 生徒の実態と教育上の課題

在校生の実態を見ると、集中力の持続や自己統制に課題があったり、社会性の発達の遅れもみられる。学力や発達の状況は個人差が大きい。窯業科・産業科、農業科、家庭総合科、生活家庭科のどの学科の作業においても、「丁寧に手早く作業すること」を重視して成果を挙げている。学科によっては作業上の課題に気付いて生徒相互に教え合う活動が少なく、指示されて作業することが多い状況にあり、なぜ作業を指示されたようにする必要があるのであるのかなど、作業の目的や必要性を就労後の生活と関連させて丁寧に気付かせたり、理解できるようにする必要があるのである。

一方で、通常の学級に在籍する発達障がいのある生徒が中学校時代に不登校となり、本校に入学してくる事例が増えてきている。このような生徒は口頭言語能力や知識に比べて社会性の発達に遅れがあるため、障がい認識が進まず自分自身の自己像と実際の働く力とはギャップがあり、現場実習そのものに高いハードルを感じ、つまずきやすい。

生徒自らが社会で働くために必要な準備とは何かを考え気付くようになるためには、褒められたり感謝されたりする機会を増やし、生徒の自己有能感が高まる場面設定が必要になる。

(3) 地域との協働活動と地域生活への移行

生徒の実態を踏まえると、自己肯定感や自己有能感の獲得・向上に止まらず、社会で働く上で何が必要なのかを気付く機会として、校外での作業や現場実習を積極的かつ計画的に設定する必要がある。平成28年度から取り組んできた校外での受注作業（役場での町内会配布物の仕分けサービスなど）や商工会事業による実習、個別実習など、社会との接点を強く意識する教育活動は、今後ますます重要な役割を果たすものと考えている。

特に、校外で行う受注作業（地域との協働活動）は、地域の関係機関の業務を補助する活動として、スタッフの一員に準ずる存在として作業の精度を上げることにより、関係機関の職員や町民から感謝されることが、生徒の自己肯定感や自己有能感を高めるとともに、生徒がより一層地域に溶け込むことにつながる教育効果の高い教育活動である。同時に、関係機関の職員や町民は、障がいのある生徒との接し方を活動を通して自然に学ぶことが可能となるのみではなく、生徒が地域コミュニティを支える存在となることにより、卒業生が地域に溶け込んで町民との交流を楽しみながら就労する「共生社会の実現」に資することができると考えられる。

今金町では、「今金町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」（27年度～31年度）の基本戦略の第一位に「障がい者が地域産業の担い手としての活躍の場づくり」を挙げており、地域との協働活動は「共生社会の実現」を目指す国や道、町の施策とも合致する。

(4) 社会の一員として働く意識付け

一般就労と福祉的就労を合わせて、卒業生の7割が食品加工や水産加工に従事しており、製品は販売されて収益を上げることが求められる就労状況にある。生徒は一般就労した場合は特に組織が目指す目標に向かって努力することが求められ、福祉的就労においても収益性のある作業が今後求められることから、作業の方法を工夫したり、課題を発見して改善し収益を上げることを意識した学習活動の枠組みを設定することが重要になる。

また、生徒自らが社会で働くために必要な準備とは何かを考え気付くようになるためには、現場実習のみならず、商工会実習や校外で行う受注作業（地域との協働活動）を個人単位の学習としてではなく、現実の社会の企業活動を模擬的にイメージして、「組織の一員としての役割を担って働く活動」を行うことの方が、より課題を意識しやすくなるを考える。生徒が実社会を想定した役割を担うことは、役割意識と責任をもって活動に取り組むことにつながりやすく、社会で働くために必要な事柄についての気付きや理解がより一層促進される。

そして、次期学習指導要領では、地域の公共システムにおけるコミュニティの拠点として、よりよい教育でよりよい社会を作ることを地域と共有する「社会に開かれた教育課程」であることが求められている。地域の関係機関の業務補助を行うことは、生徒の社会経験の拡充と実践的な働く力の獲得に資するばかりではなく、地域コミュニティの拠点としてよりよい教育を地域とともに作り、よりよい社会を作ることにつながる。

このようなことから、作業学習や受注作業、販売等について、「会社の仕事」として業務を行うという役割意識を生徒に持たせるとともに、仕入や在庫管理、販売・会計のプロセスを体験する学習の枠組み及びよりよい教育を地域と連携して進め共生社会を実現する「社会に開かれた教育課程」の具体的な学習活動の枠組みとして、「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」を設立、運営することとした。

2 模擬株式会社 IMAKANE FACTORYの目的

(1) 生産活動による職業能力・技能・態度の獲得

学科の専門教科の作業学習（自学科作業、他学科作業）を通じて、勤労意欲の向上と働くことへの理解を深めるとともに、社会参加・自立に必要な職業能力・技能・態度を育成する。

(2) 共通教科の作業学習（職業・家庭）による進路動向に対応した職業能力・技能・態度の獲得

学科共通作業種（環境整備、流通・サービス、食品加工）の作業学習を通じて、進路動向に対応した幅の広い職業能力・技能・態度を育成する。

(3) 地域一体型デュアル実習による職業能力・技能・態度の獲得

デュアル実習Ⅰ（受注作業）は、町役場、総合福祉施設など地域の関係機関の業務の補助的なスタッフとして業務に当たる「地域の関係機関との協働活動」により、自己有能感を向上させるとともに、社会で働くために必要な事柄についての気付きを促し理解を深める。併せて、流通・

サービスや福祉サービスに関わる職業能力・技能・態度を育成するとともに、地域社会に奉仕する社会貢献活動として位置付け、生徒の社会参画の意識を高める。

デュアル実習Ⅱ（商工会実習）は、商工会事業による就労候補者が町内の農家・商店・水耕栽培工場等で実習を行い、多様な業務に対応できる柔軟性や社会性を含めた職業能力・技能・態度を育成する。

(4) 生産・仕入、販売実習による商業ビジネスの基礎的な理解の拡充

学科の定番の生産品のほか、学科の新商品や高等学校・社会福祉法人との開発商品、仕入商品の販売実習を通して、接遇なども含め、商品開発、仕入れ、生産と販売の計画、予算・決算に至る一連の商業ビジネスの基礎的・基本的知識や技能・態度を育成する。

(5) 交流及び共同学習の充実

北海道檜山北高等学校や北海道八雲高等学校と共同で商品開発を行うことにより、高校生と目標を共有した活動を活性化させ、交流及び共同学習を充実させる。

(6) 今金町の商店街の活性化に参画

多機能型事業所ワークショップいまかねと協働して商品化を進め、学校祭や販売会、町内商業施設で地域の土産商品として販売し、今金町の商店街の活性化に貢献する。

(7) 保護者との連携による学校教育の活性化

学校の教育活動であるとともに、PTA活動にも位置付け、模擬株式会社の活動に関わって学校と家庭の連携を深め、職業学科の教育を保護者との連携により、より一層活性化する。

3 目標

- (1) 生徒自らが社会で働くために必要な準備とは何かを考え気付き、その準備のために努力することができるようになる。
- (2) 生産・仕入と販売活動により、流通の仕組みや収益を上げるための工夫をすることができるようになる。
- (3) 業務遂行上の課題を明確にして改善策を提案できる力を身に付けさせる。

4 学習内容

(1) 各学科の専門教科の作業学習

- 窯業科・産業科
窯業生産品の製造及び販売、印刷や情報の学習
- 農業科
草花や野菜の栽培、収穫、加工、販売などの学習
- 家庭総合科
織物・縫製製品作り、食品加工、クリーニング、紙漉や紙製品作り、販売などの学習
- 生活家庭科
リサイクル、縫製製品作り、石けん作り、紙漉や紙製品作り、販売などの学習

(2) 共通教科の作業学習～学科共通作業

○ 環境整備

- ・ 町民センター、総合体育館、野球場等の環境整備
- ・ 校舎内外の清掃
- ・ 町内の美化活動
- ・ 役場、総合体育館へのフラワーレンタル（管理も含む）～農業科
- ・ 檜山北高校と合同の花壇整備～農業科
- ・ 校舎内外の除雪（高齢者宅の除雪も含む。）

○ 流通・サービス

- ・ 役場での町内会配布物の仕分けサービス（社会貢献活動）
- ・ 総合福祉施設での車いす清掃、レク等の補助（社会貢献活動）
- ・ 学校を会場とした役場等の主催事業の活動補助（社会貢献活動）
- ・ 地域課題を解決する「地域グループワーク」（地域イベントの企画・運営・参加）
- ・ 学校配布物の印刷・発送作業
 - 体育祭や学校祭の案内文書の印刷、折り込み、封入、宛先貼り、仕分け
 - 学校通信等の文書作成・印刷・発送
- ・ 飲食接遇サービス
 - 野外給食の材料発注と調理・サービス
 - 給食試食会等
- ・ データ入力等
 - 生産物の在庫管理や販売品の管理
 - 仕入れ、製造計画、販売企画（POP制作）
 - 売り上げ集計、決算報告
 - 今養版商品管理システムの開発と商品管理
- ・ その他

福祉避難所（高齢者・障がい者の二次的避難所）に指定された場合には、避難所運営の補助を検討する。

○ 食品加工

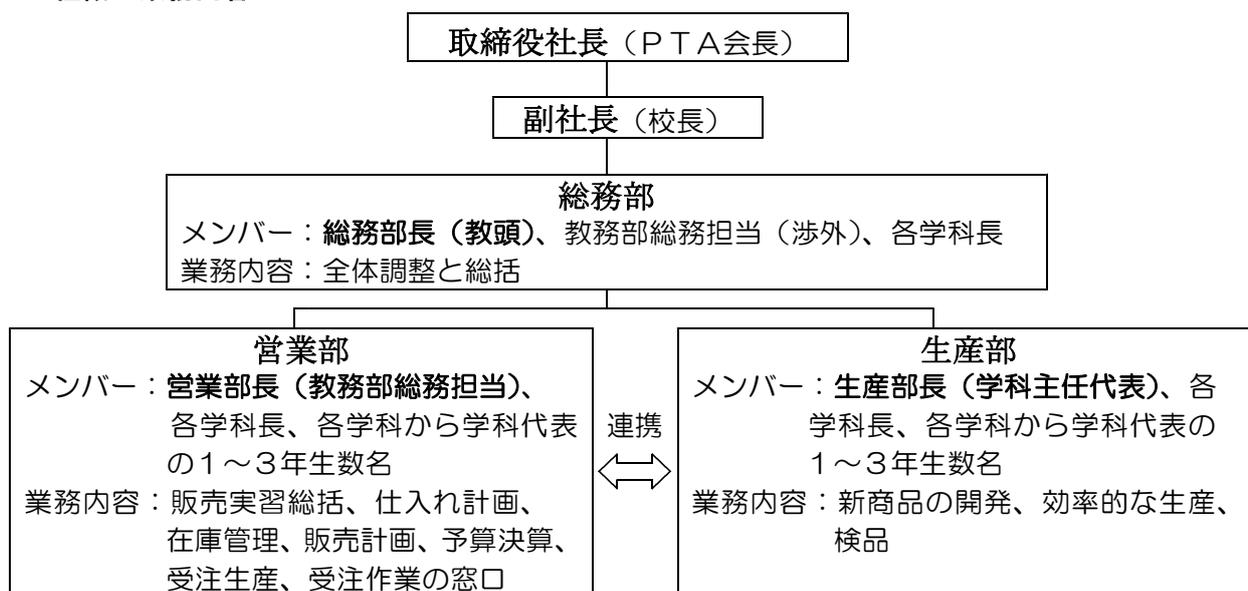
- ・ 外部講師による加工体験実習
毎年2月に1年、2年各学年ごとに、北海道檜山北高等学校で実施する。
- ・ ワークショップいまかねでの加工体験実習
- ・ 八雲高等学校との商品開発～家庭総合科
※商業教育フェアへの参加（9月）
- ・ 檜山北高等学校との商品開発～農業科・窯業科
※農業高校食彩フェアへの参加を検討
- ・ 見学旅行での販売実習（舞浜ベイホテル）
※検討、実施する。

5 学習の仕組み

- ・ 全生徒が一人500円の出資金をPTAから受けて模擬株主及び社員となる。なお、設立に当たっては、定款を作成する。

- 商品の仕入れは、町内外の実習先などから仕入れる。
- 販売は、学校祭、販売会、ひだまり（今金町内の販売所 社会福祉法人光の里経営）などで行う。
- 販売に当たっては、仕入れ値で販売し、売上金と残金をPTA会計に戻入する。
- 学科生産品と仕入商品の販売では利益を上げない形で実施するが、仕入や商品開発・販売の仕組みの理解を深めるため、仕入販売の商品に一定の利益相当額をPTAより、「商品開発費」として予算化し、次の商品開発のための学習に使用する。当面の間、商品単価の20%とする。
- 学科の生産品には「IMAKANE FACTORY」のロゴマークを印刷したシール等を添付などとして、「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」の商品であることが分かるようにする。

6 組織・業務内容



7 組織・業務内容

| 会議名 | メンバー | 内容 |
|--------------------------------|---------------------------------|---|
| 定例学科長会議 (毎月1回) (月曜日第2校時) | 校長・教頭・教務部長・ 学科長 (模擬株式会社経営会議) | • 全体の経営企画と調整、報告、改善 |
| 営業部会議 (毎月1回放課後) | 各学科長、各学科から学科代表の3年生 (班長) | • 各学科の作業計画・実習計画と改善 • 販売実習総括、仕入れ計画、在庫管理、販売計画、予算・決算、受注生産・受注作業の受付 |
| 生産部会議 (毎月1回放課後) | 各学科長、各学科から学科代表の3年生 (班長) | • 新商品の開発、効率的な作業体制や方法の検討、正確な検品方法の工夫 |
| 学科会議 (学年ごと) | 学科長、班長 | • 営業部会議と生産部会議の報告と協議 ※協同学習の活用 |

8 学習日程

(1) 会社の設立

当面の間、4月PTA総会にて定款の審議、決定、設立を行う。生徒はPTA総会後に会社設立の説明を受けることとする。将来的には、可能な範囲で生徒が営業部長や生産部長を担当することを想定して進める。その場合は、会社設立説明会を生徒対象に行った後に、生徒が担当する役職を決め、設立総会を実施する。

例 営業部長、生産部長、監査役などを各学科の代表生徒

(2) 「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」株主総会（学科交流会）（6月）

各学科代表生徒が年間の生産計画・販売計画（販売促進）、生産上工夫する点などを説明し、交流する。

(3) 学校説明会（6月）～中学校3年生対象～

各学科の2年生が、学科の生産計画・販売計画（販売促進）、生産上工夫する点などを説明する。その後、実際の作業体験を中3生にしてみよう。

(4) 商工会セミナー（9月・10月）

今金町商工会の講師から、商品を開発する上で大切な事項、学校祭や販売実習における仕入販売の方法や工夫などについて、指導を受ける。

(5) 学校見学会（10月）～中学校2年生対象～

学校説明会と同様に行う。 ※商業教育フェア（9月）、農業高校食彩フェア（10月）

(6) 学校祭での販売（11月）

(7) 町内報告会（2月）

各学科の生徒代表数名が、3年間お世話になった感謝の気持ちを込めて、役場の3階会議室で年度の生産計画・販売計画と結果、生産上工夫した点、来年度取り組みたいことなどを役場職員や後援会役員に報告する。

(8) PTA役員会（2月）

PTA役員会（取締役会）にて、年間の事業報告と監査、来年度の事業計画の承認を受ける。

(9) 校内報告会（株主総会）（2月）

各学科代表が生産品の在庫と売上、来年度の改善事項を報告する。併せて、仕入販売商品の売上げと決算を報告し、会社を解散する。

※販売実習では、販売促進のためのちらしや掲示物をパソコンも活用して制作する。

(10) 2学年販売実習（3月）

(11) 仮想店舗作り（通年）

各学科の生産品の製品カタログを本校ホームページ上で紹介する（販売はしない）。

9 帳票類と会計処理

帳票としては、「今養版商品管理システム」を用いて、仕入れ商品や生産品の入庫に当たっては、「入庫書」、「納品書」、「学科別在庫一覧表」を作成し、生産品を商品管理システムに登録する。販売会などのために入庫するときには、「出庫依頼書」、「出庫記録簿」、「配送伝票」を作成する。仕

入れ商品の場合には、「仕入明細書」、「売上明細書」、「現金出納帳」を作成する。生產品の場合には、「売上明細書」を作成する。

そのほか、「作業計画表」、「販売計画表」、「仕入れ計画表」、「受注作業受付票」などを必要に応じて整備する。会計処理には、仕入明細書、売上明細書、現金出納帳を用いて処理し「予算決算」など株主総会に必要な書類を作成する。

※「営業費支払明細書」は、当面の間作成しない。

帳票類の様式は、学科の実態に応じて表現を分かりやすく変更する。

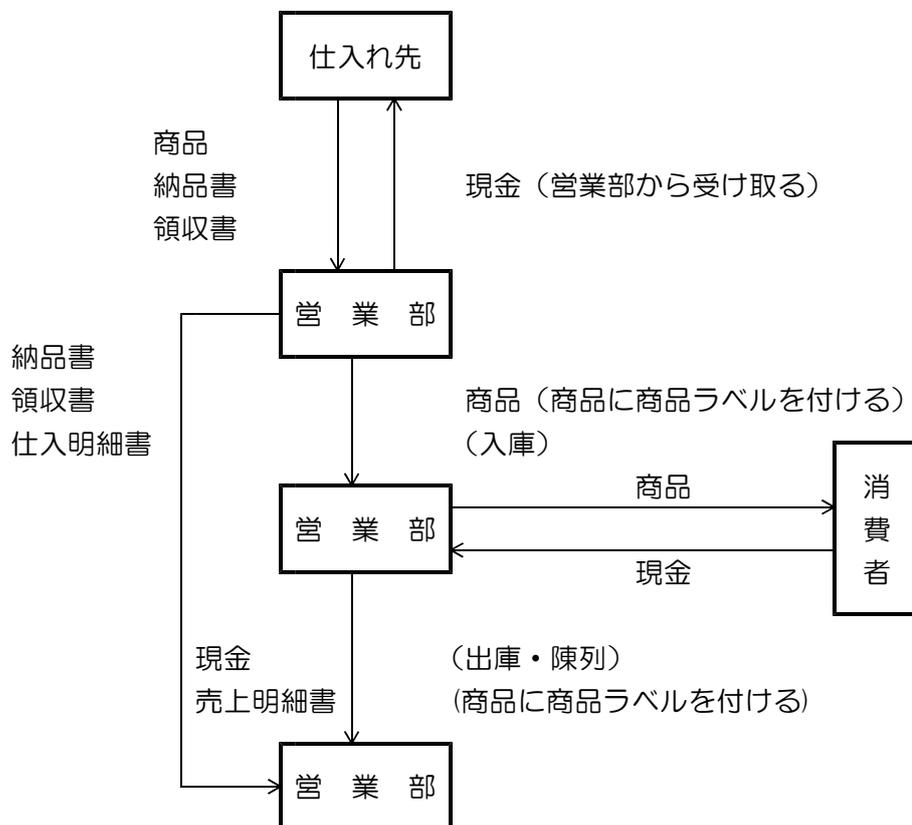
例 基本骨格の項目は可能な限り減らさずに、分かりやすい表現や視覚的な補助手段（イラスト等）を使い、「できる状況」作りを心掛ける。

10 諸帳簿の流れ

- (1) 商品を仕入れ、販売等を行った日には、営業日誌に記入し、担当教員に提出する。
- (2) 仕入明細書に記入し、商品と請求書を添えて担当教員（営業部）に提出する。
- (3) 仕入れ商品は、商品管理システムに登録し、商品ラベルを貼る。
- (4) 営業部より、仕入代金を受け取り支払う。
- (5) 仕入明細書を基に現金出納帳を作成する。
- (6) 販売後には、売上明細書を基に現金出納帳に記帳する。

11 帳簿組織等

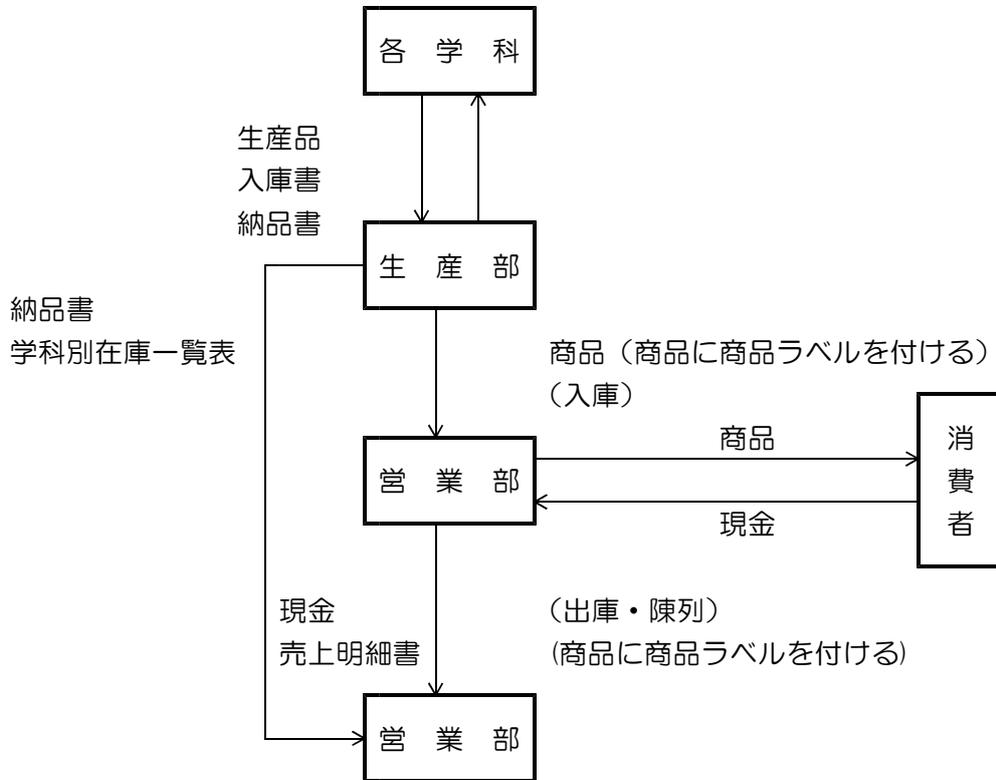
(1) 仕入商品



(商品番号)

- ① 窯業製品 ② 農産品（野菜・花） ③ 縫工製品 ④ 紙製品
- ⑤ 織工製品 ⑥ 石けん ⑦ アクセサリー ⑧ 仕入商品

(2) 学科生産品



12 自己評価

模擬株式会社の活動について、2月に生徒を対象にアンケートによる自己評価を実施する。

(質問例) 「あなたは、模擬株式会社の活動で、どのようなことがよかったですか。」

13 年間指導計画

模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 年間指導計画

| 単元等 | 時期 | ねらい | 内 容 | 備 考 |
|---------------------------------------|-----------|---|--|------------|
| PTA総会 | 4月 | | 定款の審議、決定、設立を行う。 | |
| ①（会社の設立説明会） | 5月 | 会社の目的、業務内容、組織、年間計画などについて生徒に説明し、理解できるようにする。 | ※生徒が営業部長や生産部長を担当する場合 ・目的、業務内容、組織体制、年間計画 など。 | H30年度以降の実施 |
| ②（準備委員会） | 5月 | | 各学科ごとに3年生から代表生徒を選出する。 | |
| ③（設立総会） | 6月 | 一年間の生産、販売、仕入、在庫管理等の概要を理解するとともに、活動の見通しと意欲をもてるようにする。 | 総務部長（教頭）が一年間の生産、販売、仕入、在庫管理等の概要を説明する。 営業部長、生産部長などの役職を選出する。 | |
| ④ 学科交流会（「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」株主総会） | 6月 | 他学科の活動内容や工夫しているところを学ぶとともに、自学科の活動に対する意欲を高める。 | 各学科代表生徒が年間の生産計画・販売計画（販売促進）、生産上工夫する点などを説明し、交流する。 | |
| ⑤ 学校説明会 | 6月 | 自学科の学習活動の概要を中学校3年生に分かりやすく説明できるようにする。 | 各学科の2年生が、学科の生産計画・販売計画（販売促進）、生産上工夫する点などを説明する。その後、中学校3年生が実際の作業体験を行う。 | |
| ⑥ 商工会セミナー | 9月 10月 | 商品を開発する上でのポイント、学校祭や販売実習における仕入販売の方法や工夫などについて、理解を深める。 | 今金町商工会の講師から、商品を開発する上で大切なポイント、学校祭や販売実習における仕入販売の方法や工夫、ショコラクッキーの一般販売の方法について学ぶ。 | |
| ⑦ 学校見学会 | 10月 | | 学校説明会と同様に行う。 ※商業教育フェア（9月）（農業高校 食彩フェア〔10月〕） | |
| ⑧ 学校祭での販売 | 11月 | 日頃の作業学習などの成果を発揮して、販売会が円滑に進められるように工夫するとともに、達成感や自己有能感を感じられるようにする。 | 各学科の生産品と仕入商品の販売と売上明細書の作成を行う。 | |
| ⑨ 町内報告会 | 2月 | 一年間の取り組みの成果を発表し、3年間お世話になった感謝の気持ちを表すことができるようにする。 | 各学科の生徒代表数名（3年生）が、役場で年度の生産計画・販売計画と結果、生産上工夫した点、来年度取り組みたいことなどを役場職員（後援会役員）に報告する。 | |
| ⑩ PTA役員会 | 2月 | | PTA役員会（取締役会）にて、年間の事業報告と監査、来年度の事業計画の承認を受ける。 | |
| ⑪ 校内報告会（株主総会） | 2月 | 一年間の活動を振り返り、次年度の模擬株式会社の活動に向けた改善事項を話し合い、考えることができるようにする。 | 各学科代表が生産品の在庫と売上、来年度の改善事項を報告する。併せて、仕入販売商品の売上げと決算を報告し、会社を解散する。 | |
| ⑫ 2学年販売実習 | 3月 | 日頃の作業学習などの成果を発揮して、販売会が円滑に進められるように工夫するとともに、達成感や自己有能感を感じられるようにする。 | 各学科の生産品と仕入商品の販売と売上明細書の作成を行う。 | |

| | 学科共通作業 | 時期 | |
|--|--|---|----|
| ① 環境整備 | ア 町民センター、総合体育館、野球場等の環境整備 | 8月～3月 | |
| | イ 校舎内外の清掃 | 随時 | |
| | ウ 町内の美化活動 | 8月～3月 | |
| | エ 役場、総合体育館へのフラワーレンタル（管理も含む）～農業科 | 通年 | |
| | オ 檜山北高校と合同の花壇整備～農業科 | 毎年5月末 | |
| | カ 校舎内外の除雪（高齢者宅の除雪も含む。） | 冬期間 | |
| ② 流通・サービス | ア 役場での町内会配布物の仕分けサービス | 毎月2回 | |
| | イ 総合福祉施設での車いす清掃、レク等の補助 | 毎月1回程度（レクは9月～） | |
| | ウ 学校を会場とした役場等の主催事業の活動補助 ・すっきりサークル特別編（今養編）18：45～19：45 | 2月 | |
| | エ 地域課題を解決する「地域グループワーク」（地域イベントの企画・運営・参加） ・農業科Aコープ販売（3年）5/17（水） ・春らんまん花いっぱいまつり5/21（日）～1学年 ・にぎわい商店街7/8（土） ・町民体育祭7/9（日） ・夢縁日（商工会）7/21（金） ・ぴりかマラソン（町教委）7/23（日） ・今金秋祭り（町教委、商工会、町内会）9/20（水） ・にぎわい商店街（商工会）10/1（日） ・町民文化祭（太鼓クラブ、音楽部）10/29（日） ・学校祭11/19（日） ・雪明かり in 今金（商工会）2/14（水） ・ぴりかふれあい歩くスキー大会（町教委）2/18（日） ・販売実習（2学年）3/15（木） | ※下線部の行事に参加 他は可能な場合に参加 | |
| | オ 学校配布物の印刷・発送作業 ・体育祭や学校祭の案内文書の印刷、折り込み、封入、宛先貼り、仕分け ・学校通信等の文書作成・印刷・発送 | 体育祭・学校説明会（4月）、学校通信（毎月）、学校見学会（8月）、学校祭（10月）、卒業式（1月）、入学式（3月） | |
| | カ 飲食接遇サービス ・野外給食の材料発注と調理・サービス ・給食試食会等 | 7月 12・2月・3月 | |
| | キ データ入力等 ・生産物の在庫管理や販売品の管理 ・仕入れ、製造計画、販売企画（POP制作） ・売り上げ集計、決算報告 | 随時 | |
| | ク その他 ・福祉避難所（高齢者・障がい者の二次的避難所）に指定された場合には、避難所運営の補助を検討する。 | | |
| | ③ 食品加工 | ア 外部講師による加工体験実習（北海道檜山北高等学校） | 2月 |
| | イ ワークショップいまかねでの加工体験実習 | 12月～ | |
| ウ 八雲高等学校との商品開発～家庭総合科 ※商業教育フェアへの参加（9/15）生徒2名参加予定 | 6月2回程度 | | |
| エ 檜山北高等学校との商品開発～農業科・窯業科 ※農業高校食彩フェアへの参加（来年度）を検討 | 9月2回程度 | | |